



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成15年3月調査分)

景気の現状判断DI

	平成14年12月	平成15年3月	前回調査比
茨城県	38.5	38.2	-0.3
県北地域	30.3	30.1	-0.2
県央地域	40.6	39.1	-1.5
鹿行地域	38.4	39.5	+1.1
県南地域	40.1	40.7	+0.6
県西地域	43.4	41.4	-2.0

景気の先行き判断DI

	平成14年12月	平成15年3月	前回調査比
茨城県	34.9	34.8	-0.1
県北地域	31.6	28.7	-2.9
県央地域	38.8	36.8	-2.0
鹿行地域	35.2	33.0	-2.2
県南地域	34.0	35.2	+1.2
県西地域	34.9	39.7	+4.8

平成15年4月

茨城県企画部統計課

目 次

調査の概要	2
調査結果の概要	4
1 全県の動向	4
(1) 景気の現状判断 D I	4
(2) 景気の先行き判断 D I	4
2 地域別の動向	5
(1) 景気の現状判断 D I	5
(2) 景気の先行き判断 D I	7
3 回答率	9
景気の判断理由	10
1 景気の現状判断理由	10
2 景気の先行き判断理由	15
3 その他の意見	20

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人たちから、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、那珂郡、久慈郡、多賀郡
県央地域	水戸市、笠間市、東茨城郡、西茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、鹿島郡、行方郡
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷郡、新治郡、筑波郡、北相馬郡
県西地域	古河市、下館市、結城市、下妻市、水海道市、岩井市、真壁郡、結城郡、猿島郡

(2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	体	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等			38	39	39	37	36	189
企業関連	製造業(食料品、一般機械器具等)、建設業、金融業等			17	16	16	18	19	86
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等			5	5	5	5	5	25
		計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見(自由回答)

4 調査月及び調査期間等

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回であり、調査期日は概ね調査月の15日から25日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、
 $(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5$ となる。

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは38.2であり、12月調査分と比べて0.3ポイント下回った。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIが12月調査分を上回ったものの、家計動向関連DIが12月調査分を下回った。なお、横断を表す50を引続き下回った。

表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月
合計		21.9	38.5	38.2
家計動向関連		20.8	36.3	35.1
小売関連		23.5	30.4	34.0
飲食関連		8.8	44.4	31.9
サービス関連		20.5	40.9	35.8
住宅関連		25.0	10.0	39.3
企業動向関連		23.2	41.5	42.8
農林水産業		21.9	43.8	46.4
製造業		25.0	46.6	44.0
非製造業		20.7	33.3	39.8
雇用関連		26.1	43.5	45.5

表1-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.7%	15.5%	39.6%	39.2%
平成14年12月	3.3%	14.7%	32.6%	31.5%	17.9%
平成15年3月	2.2%	11.8%	36.2%	36.2%	13.7%

(2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは34.8であり、12月調査分と比べて0.1ポイント下回った。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIが12月調査分を上回ったものの、家計動向関連DIが12月調査分を下回った。なお、横断を表す50を引続き下回った。

表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月
合計		41.2	34.9	34.8
家計動向関連		40.8	34.1	33.4
小売関連		40.8	32.7	33.2
飲食関連		30.9	34.7	33.3
サービス関連		42.8	35.6	33.9
住宅関連		40.6	25.0	28.6
企業動向関連		42.7	35.4	35.9
農林水産業		34.4	40.6	39.3
製造業		44.0	37.5	35.3
非製造業		42.9	30.8	36.1
雇用関連		39.1	39.1	40.9

表1 - 4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	1.1%	8.9%	53.9%	26.2%	9.9%
平成14年12月	1.1%	7.3%	40.3%	32.6%	18.7%
平成15年3月	0.4%	10.0%	35.8%	36.2%	17.7%

2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断DI

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは30.1であり、12月調査分と比べて0.2ポイント下回った。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIが12月調査分を上回ったものの、家計動向関連DIが12月調査分を下回った。なお、DI値30.1は全県を通じて最も低かった。

表2 - 1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月
合計		18.0	30.3	30.1
家計動向関連		18.6	28.6	24.3
企業動向関連		13.2	30.9	39.1
雇用関連		30.0	40.0	43.8

表2 - 2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	3.5%	12.3%	36.8%	47.4%
平成14年12月	0.0%	8.8%	33.3%	28.1%	29.8%
平成15年3月	1.9%	1.9%	37.0%	33.3%	25.9%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは39.1であり、12月調査分と比べて1.5ポイント下回った。業種別にみても、企業動向関連DIが12月調査分と比べて上回ったが、家計動向関連DIは12月調査分と比べて下回った。なお、雇用関連DIは12月調査分と同じであった。

表2 - 3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月
合計		24.6	40.6	39.1
家計動向関連		24.3	40.3	36.1
企業動向関連		25.0	42.2	46.7
雇用関連		25.0	37.5	37.5

表2 - 4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.4%	17.9%	46.4%	30.4%
平成14年12月	3.6%	17.9%	30.4%	33.9%	14.3%
平成15年3月	3.6%	12.7%	34.5%	34.5%	14.5%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは39.5であり、12月調査分と比べて1.1ポイント上回り、全県を通じて上昇幅が最も大きかった。業種別にみても、家計動向関連D Iが12月調査分と比べて上回ったが、企業動向関連D Iは12月調査分と比べて下回った。なお、雇用関連D Iは12月調査分と同じであった。

表2-5 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月
合計		22.3	38.4	39.5
家計動向関連		22.2	33.3	40.3
企業動向関連		23.3	48.4	37.5
雇用関連		18.8	40.0	40.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.5%	16.4%	40.0%	38.2%
平成14年12月	3.7%	13.0%	37.0%	25.9%	20.4%
平成15年3月	2.0%	10.0%	40.0%	40.0%	8.0%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは40.7であり、12月調査分と比べて0.6ポイント上回った。業種別にみても、企業動向関連D Iが12月調査分と比べて下回ったが、家計動向関連D I及び雇用関連D Iは12月調査分と比べて上回った。

表2-7 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月
合計		24.6	40.1	40.7
家計動向関連		22.1	40.2	40.4
企業動向関連		30.9	42.2	40.6
雇用関連		20.0	31.3	43.8

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.3%	19.3%	43.9%	31.6%
平成14年12月	7.5%	13.2%	28.3%	34.0%	17.0%
平成15年3月	3.7%	16.7%	29.6%	38.9%	11.1%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは41.4で、12月調査分と比べて2.0ポイント下回り、下降幅が全県を通じて最も大きかったが、D I値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、企業動向関連D Iは12月調査分と比べて上回ったが、家計動向関連D I及び雇用関連D Iは12月調査分と比べて下回った。なお、雇用関連D Iは全県を通じて、唯一50を上回った。

表2-9 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月
合計		20.3	43.4	41.4
家計動向関連		16.4	39.5	34.6
企業動向関連		23.6	44.1	48.7
雇用関連		35.0	65.0	60.0

表 2 - 1 0 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	8.6%	12.1%	31.0%	48.3%
平成14年12月	1.9%	20.8%	34.0%	35.8%	7.5%
平成15年3月	0.0%	17.2%	39.7%	34.5%	8.6%

(2) 景気の先行き判断D I

県北地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは28.7であり、12月調査分と比べて2.9ポイント下回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが12月調査分を下回った。また、D I値28.7は全县を通じて最も低く、下降幅も最も大きかった。

表 2 - 1 1 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月
合計		33.8	31.6	28.7
家計動向関連		35.7	27.1	25.0
企業動向関連		30.9	38.2	35.9
雇用関連		30.0	40.0	31.3

表 2 - 1 2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	7.0%	36.8%	40.4%	15.8%
平成14年12月	1.8%	1.8%	38.6%	36.8%	21.1%
平成15年3月	0.0%	3.7%	33.3%	37.0%	25.9%

県中央地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは36.8であり、12月調査分と比べて2.0ポイント下回った。業種別にみると、雇用関連D Iが12月調査分と比べて上回ったが、家計動向関連D I及び企業動向関連D Iは12月調査分と比べて下回った。

表 2 - 1 3 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月
合計		41.8	38.8	36.8
家計動向関連		41.7	39.6	35.4
企業動向関連		46.7	42.2	41.7
雇用関連		25.0	18.8	31.3

表 2 - 1 4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	7.3%	60.0%	25.5%	7.3%
平成14年12月	0.0%	12.5%	42.9%	32.1%	12.5%
平成15年3月	0.0%	9.1%	43.6%	32.7%	14.5%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは33.0であり、12月調査分と比べて2.2ポイント下回った。業種別にみても、家計動向関連D I及び企業動向関連D Iが12月調査分と比べて下回った。なお、雇用関連D Iは、12月調査分と同じであった。

表2-15 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月
合計		42.3	35.2	33.0
家計動向関連		45.1	33.3	29.8
企業動向関連		36.7	35.9	35.7
雇用関連		37.5	45.0	45.0

表2-16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	9.1%	60.0%	21.8%	9.1%
平成14年12月	0.0%	11.1%	40.7%	25.9%	22.2%
平成15年3月	0.0%	12.0%	30.0%	36.0%	22.0%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは35.2であり、12月調査分と比べて1.2ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連D I及び雇用関連D Iが12月調査分と比べて上回り、企業動向関連D Iは12月調査分と比べて下回った。

表2-17 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月
合計		46.5	34.0	35.2
家計動向関連		42.1	37.1	39.0
企業動向関連		54.4	28.1	26.6
雇用関連		50.0	31.3	37.5

表2-18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	5.3%	12.3%	52.6%	22.8%	7.0%
平成14年12月	0.0%	5.7%	43.4%	32.1%	18.9%
平成15年3月	1.9%	13.0%	27.8%	38.9%	18.5%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは39.7であり、12月調査分と比べて4.8ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連D I及び企業動向関連D Iが12月調査分と比べて上回った。なお、雇用関連D Iは12月調査分と同じであった。また、D I値39.7は全県を通じて最も高く、上昇幅も最も大きかった。

表2-19 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月
合計		41.8	34.9	39.7
家計動向関連		39.3	33.1	37.5
企業動向関連		44.4	32.4	39.5
雇用関連		50.0	55.0	55.0

表 2 - 2 0 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成 1 4 年 9 月 (試行分)	0.0%	8.6%	60.3%	20.7%	10.3%
平成 1 4 年 1 2 月	3.8%	5.7%	35.8%	35.8%	18.9%
平成 1 5 年 3 月	0.0%	12.1%	43.1%	36.2%	8.6%

3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	271 人	90.3%
県北地域	60 人	54 人	90.0%
県央地域	60 人	55 人	91.7%
鹿行地域	60 人	50 人	83.3%
県南地域	60 人	54 人	90.0%
県西地域	60 人	58 人	96.7%

景気の判断理由

1 景気の現状判断理由

(1) 県北地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	パチンコ店	売上げ・来客数が増加した。
やや良くなっている	企業関連	製造業（電気機械器具）	一時的ではあるが受注が増加した。
変わらない	家計関連	家電販売店	必要不可欠なものには良い商品を選び、必要でないものには経費をかけないという二極化傾向が続いている。
		自動車販売店	販売台数に変化がない。
		農産物直売所	農産物の売上げは好調だが、他の土産品はそれほどでない。客は必要以外の物は購入しない。
		食堂	売上げに変化がない。
		観光型ホテル	売上げに大きな変化はない。客単価は低下傾向にある。
		旅行代理店	旅行の取扱件数及び取扱人数ともに増加していない。また、旅行者の旅行先での支出額が少ない。
		ゴルフ場	業績は一進一退の状況である。
		レジャー施設	引き続きパート募集に対する申込件数が多い。
	企業関連	製造業（電気機械器具）	企業の3月期決算を迎え、例年は受注量が増加する傾向にあるが、今年は増えていない。
		製造業（電気機械器具）	受注量に変化が見られない。
		製造業（電気機械器具）	特に変わった様子は見られない。
		製造業（輸送用機械器具）	現状維持で大きな変化は見られない。
		非製造業（建設業）	低調のままで目立った動きはない。
		非製造業（不動産業）	受注件数は増加しているが、受注金額は変わっていない。競争入札が増えることによって受注単価が減少傾向である。
	雇用関連	非製造業（情報処理サービス）	取引先の予算規模が縮小したことに伴う影響が続いている。
		人材派遣業	年度末といった季節的要因による新規派遣契約が数件発生しており、派遣契約件数としては増加傾向にある反面、契約の非更新も見受けられ、派遣事業全体を見ると市場が活性化しているとは考えにくい状況といえる。また売上高も現状維持の状態である。
		人材派遣業 公共職業安定所	特に目立って忙しくなった企業がない。 有効求人数は4か月連続で増加しているが、賃金や労働時間といった求人条件の低下が見られる。
やや悪くなっている	家計関連	コンビニエンスストア	客単価が低下している。
		衣料品専門店	広告を出しても、客は初日しか反応しなくなり、しかも目玉商品にしか目がいかない。
		ガソリンスタンド	競合店が安い値段で灯油を販売してから、元売価格の値上げ分を料金に転嫁できないため、利潤がなくなった。
		小売業（靴製品）	収入減や株安等で生活防衛の気持ちが強くなっている。
		レストラン	
		タクシー運転手	売上げが減少している。
		理・美容店	
		居酒屋	客単価が低下しているうえに来客数も維持できなくなってきている。
		タクシー運転手	飲酒運転の取締強化により、少しは利用客が増加すると思われたが、白タクや代行に客を奪われている。
		タクシー運転手	一日の営業回数が減少しており、夜の飲食店関係者の利用数も減少している。
	ゲームセンター	売上げが減少するとともに、客単価も低下している。	
	レジャー施設	売上げや入場者数が減少している。	
	企業関連	林業関係者	材木の安価が続いている。
水産業関係者		まき網漁業の漁獲が振るわず、小型船の豊漁が短期間のため、全体として不振で推移している。また水揚量の減少に伴い、加工業も不振であり、特に冷凍業が大不振である。	
非製造業（金融業）		製造業の一部で若干の受注はあるが、業種全体を通して売上げが減少気味である。	
雇用関連	求人広告	地元企業の業績が一層悪化している。	
悪くなっている	家計関連	商店街代表者	転出入の時期であるが、いまだに賑わいを感じず、来街者はますます減少している。
		スーパー	必要な商品を買った後、すぐに帰る客が多く、在店時間が短くなっている。大きなパックの売れ残りが多く、購入を必要最低限にしている感じが見られる。バレンタインデー関連の売上げが前年比60%と大きく減少した。
		小売業（酒類）	地元産業の低迷から人々の収入が減少し、消費にお金が回らない。特に若い世代では子供の養育費や教育費等に追われ、経済的に厳しくなっている。年金暮らしの世代が一番良いように映る。

回答区分	分野	業種・職種	理由
悪くなっている	家計関連	小売業（土産物）	来客数の減少、客単価の低下が見られ、単価が低い商品でも余分な物は購入しない。
		卸売業	冬物商品の売上げが前年比で減少している。いくら安くても購入しない。
		スナック	地元企業が不況のため、人々の財布のヒモが固くなり客が来店しない。
		割烹料理店	来客の中に失業者が多い。
		観光型ホテル	経費の増加が見られる。
		ドライブイン	職場の大半の職員がパート扱いになる。
		クリーニング店	衣類のカジュアル化の流行によりクリーニング対象品の減少が見られる。
	企業関連	製造業（一般機械器具）	作業量が減少している。

(2) 県央地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	パチンコ店	売上げが3カ月前と比べて伸びている。勝ち組と負け組がはっきりしている。
	企業関連	製造業（一般機械器具）	ここ数年年度末の仕事が無かったが、今年度は年度末の仕事が増加した。
やや良くなっている	家計関連	百貨店	客の買い控えの様子はやや弱くなっているように思われる。先行きの不透明感により消費を抑えているものの、客はお金を使いたがっているようである。ちょっとしたキッカケさえあれば消費はかなり向上くのではないか。
		コンビニエンスストア	売上げが伸びている店舗も出てきている。
	企業関連	製造業（食品）	観梅シーズンを迎え、来客数・売上げともに増加している。
		製造業（出版・印刷業）	年度末により官公庁からの受注が増加している。
		製造業（一般機械器具）	売上額や経常利益は増加したが、年度末の一時的なものであると考える。
非製造業（建設業）	年度末のため官公庁の受注が順調であり、民間の取引先でも価格は厳しいが設備投資に積極的であるように思われる。また金融機関から借入れの申し出もあり、大変良好な環境にある。		
変わらない	家計関連	商店街代表者	不況が長期間続き、今の状態が普通と感じてきている。
		百貨店	来客数や売上が3カ月前とほぼ同様である。
		スーパー	来客数・買上点数等増加していない。
		自動車販売店	3月決算期を迎え、自動車市場は動いているが、高額自動車の動きが鈍い。
		農産物直売所	2月に特殊要因（赤ネギ特需）で売上げが増加したが、それを割り引けば売上げの変化はない。
		ドラッグストア	客の購入動向に変化がない。
		レストラン	価格の安い物は手を出すが、高い物は敬遠している。
		レストラン	卒業・送別会・観梅シーズンで客足はやや増加しているが、客単価は低下している。ある程度予算をしばって利用している。
		都市型ホテル	昼夜を問わず、人の動きに変化が見られない。
		都市型ホテル	来客の話聞く限りでは、良くなっているとは思えないが、悪くなっているともいえない。客は宴会の予算をかなり気にしている。
	観光型ホテル	若干の変動はあるが、季節ごとに観光客は来館している。（最近は観梅目的）	
	レジャー施設	施設内のコーヒショップや物品販売の売上げに変化が見られない。	
	理・美容店	売上げが減少しても、企業努力で何とかできる。	
	企業関連	製造業（金属製品）	受注量が増加せず、引合いも悪い。
		非製造業（情報処理サービス）	特に変化は見られない。
	雇用関連	人材派遣業	各業種により状況は異なる。
		求人広告	通常は春になるにつれて、求人数が増加するが、その動きが見られない。
		公共職業安定所	公共工事の増加や一部電気機器が好調なことから求人申込数は増加しているが、賃金の低下や臨時雇用の増加等求人内容の質が低下している。小康状態にあたりストラや倒産も増加している。
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	客単価が低下している。
		スーパー	動きが良いのは低価格商品や特売品のみで、客単価が伸びていない。
		家電販売店	購入品数が減少しており、客単価も低下している。
		ショッピングセンター	売上額の減少のほか、衣料品関係を中心に来客数が減少している。広告を行っても、客引き用の品しか売れない。
		ガソリンスタンド	石油製品の値上げができない。
		ファミリーレストラン	
		割烹料理店	売上げが減少している。
		ゲームセンター	
		タクシー運転手	今年になってからは、利用者数が一段と減少している。
		タクシー運転手	今年になってからは、飲食店からの利用依頼が減少している。
		タクシー運転手	利用客との会話も暗い話ばかりである。
		ドライブイン	観梅シーズンで団体客は前年比で増加しているが、一般客が減少している。
		観光名所	シーズンオフのため、来客数が減少し、客単価も低下した。
		ゴルフ場	来場者数が減少しているほか、予約申込み時に料金を聞いて予約を取りやめる人も見られる。
レジャー施設	保管艇の数が減少している。また保管料未払金の返済額が減少してきた。		

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	家計関連	建築設計事務所	来年度設備投資の予算案を複数の顧客へ提出したが、中止や規模縮小が相次ぎ厳しい状況である。公共事業の減少が不安である。
	企業関連	製造業（出版・印刷業）	価格競争が激化している。
		非製造業（輸送業）	年度末を迎えても貨物の入・出庫が悪い。
悪くなっている	家計関連	非製造業（金融業）	取引先の売上げが減少傾向にある。
		商店街代表者	売上げが大きく減少している。
		タクシー運転手	観梅や送別会と利用の多いこの時期でも、前年より売上げが2～3割減少した。
	企業関連	旅行代理店	国内旅行が前年と比べて10%伸びている一方で、不安定な海外情勢の影響を受け、海外旅行のキャンセルの動きが5月まで大幅に拡大している。
		製造業（食品）	競合先の業績悪化の噂が絶えない。
		製造業（土石製品）	1～3月の売上げ・受注の減少が著しい。
		非製造業（広告代理業）	受注量が減少傾向であり、また新規発注も少ない。
雇用関連	学校就業担当者	閉店している店舗が増加している。	

（3）鹿行地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	レジャー施設	企業関係の来客数が増加しているが、企業の経費（福利厚生費）を使っただけの利用が多い。
やや良くなっている	家計関連	観光名所職員	来客数がやや増加している。
		室内装飾業	今年に入ってから忙しくなった。
		サービス業	受注量が増加している。
やや良くなっている	企業関連	フリーアルバイト	前年と比べて売上げが増加している。
		農業関係者	時期的に作物が少なく、需要が増加しているように思える。
変わらない	家計関連	商店街代表者	景気が改善する見込みがない。
		スーパー	特売品しか売れない。
		自動車販売店	3月は年間を通して最大の需要月にもかかわらず、前年より売上げが減少した。特に新規ユーザーが減ったように思われる。
		小売業（薬品店）	同業者の倒産の話を聞く。
		タクシー運転手	利用客からは景気が良くなってきたという話を全く聞かない。
		タクシー運転手	商店が店じまいをしたことにより、利用客が減少している。
		理・美容店	不景気に慣れてきているのか、身の回りで不景気な話を聞かなくなった。
	住宅販売会社	極端に良くもなっていないければ、悪くもなっていない。	
	企業関連	製造業（印刷業）	これといった変化はない。
		製造業（窯業・土石製品）	
		製造業（飼料製造）	
		製造業（窯業・土石製品）	企業の収益に改善が見られるものの、設備投資はまだ伸びていない。
		製造業（電気機械器具）	取引先の企業が突然倒産したという話が後を絶たないし、そのような話を聞いてもそれほど驚かなくなっている。
非製造業（住宅設備施工業）		受注量に変化はない。	
雇用関連	人材派遣業	生産活動の回復具合は各企業でばらつきがあり、好調な企業でも経費の圧迫は継続している。	
	公共職業安定所	求職者数が減少しない。公共職業安定所への訪問者数も相変わらず多い。	
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	目玉商品も以前に比べて売れなくなっている。
		家電販売店	客からの問い合わせ件数が減少した。
		ドラッグストア	競合店の出店で売上げが厳しい。
		商店街代表者	昨年の各種イベント（ワールドカップ・インターハイ・鹿島神宮式年祭）実施に伴う消費過剰の反動がでてきている。
		書店	前年に比べ大型店舗の出店が増加し、地元小売店の売上げが不振である。
		観光型ホテル	来客数が減少している。
		観光型ホテル	送別会のシーズンを迎えるが、忘年会シーズンより客単価が低下している。
	都市型ホテル	海外情勢の悪化に伴い、国内の景気・雇用が悪化し混迷が深まる。	
	タクシー運転手	利用客数、特に高齢者の利用が減少している。	
	企業関連	パチンコ店	長時間遊んでいく客が減少している。また、客は固定化せず店を選択している。
		製造業（食品）	年末年始と比べると売上げは減少している。
		非製造業（輸送業）	貨物の回転率が悪く、運送業務も増加していない。
		非製造業（輸送業）	受注量が増加しても相手先の値下げ要請が強く、収益回復には結びつかない。また、金融機関からの資金借入れも困難で、金利も以前より高くなってきている。
非製造業（金融業）		業種を問わず売上高の減少が目立っている。	
非製造業（金融業）		店舗の売上げが減少している。	
雇用関連	学校就業関係者	内定を取り消された学生がいる。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	雇用関連	雇用相談員	仕事の激減のため過剰人員を抱えている事業所が多く、求人申し込みはほとんどない状況である。むしろ従業員をどうしたら問題なく解雇できるか検討中の事業所が目立った。
悪くなっている	家計関連	衣料品販売店	客単価が低下しており、買上げ点数も減少している。
		タクシー運転手	売上げが減少している。
		クリーニング店	利用客一人当たりの品数が少ない。必要時以外は品物を出さなくなっている。

(4) 県南地域

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	企業関連	製造業（食品）	新商品が好調で、全体を押し上げている。	
やや良くなっている	家計関連	スーパー	ここ数か月、前年比で売上げが3%上回っている。	
		スーパー	近隣に深夜営業の競合店がオープンしたが、ここ数か月来客数・売上げとも前年を上回り順調に推移している。	
		洋食食堂	ランチタイムの来客数が増加してきており、夜間も学校関係や企業の歓送迎会等が見込める。	
		タクシー運転手	若干ではあるが売上げが伸びてきている。	
変わらない	雇用関連	人材派遣業	派遣契約件数が新規・既存ともに若干ながら増加し始めている。ただし派遣期間や派遣料金ともに厳しいものとなっている。	
		家計関連	商店街代表者	来客のうち大部分は固定客である。
	家計関連	自動車販売店	販売台数が増えているとは思えない。ガソリン価格の値上げに関して大きな影響はない。	
		小売業（各種食料品）	相変わらず客単価の上昇は見られない。	
		洋食食堂	売上げに変化がない。	
		和食食堂		
		タクシー運転手		
		企業関連	理・美容店	卒業式シーズンだが、特に来客数は増加しない。
	住宅販売会社		客の来店数等は特に変わっていない。	
	建築設計事務所		受注が少ない。	
	農業関係者		農家には将来の農業に対する多くの不安があるため、現在さえ良ければとの考えがある。	
	雇用関連	製造業（食品）	良くも悪くもならない状況で推移している。	
		非製造業（輸送業）	倉庫の荷物類の動きに変化が見られない。	
	やや悪くなっている	家計関連	求人広告	飲食業関連の客足が少ない。
			学校就業関係者	求人先企業等の新規開拓を行っているが、変わっていない。
		家計関連	スーパー	来客数は前年並みであるが、客単価についてはわずかだが低下している。
スーパー			競合店の進出により売上げが減少しているほか、客単価も低下している。	
コンビニエンスストア			利用客の購入する品数が少ない。	
衣料品・身の回り品販売店			近所に大型店舗が開店した影響で売上げが減少している。	
家電販売店			通常は3月に売れる商品の動きが鈍い。消費者は必要最低限の物しか購入しない。	
農産物直売所			さまざまな経費節減が必要となった。	
寿司店			予約客のいる日は忙しいが、フリーの客が少ない。	
観光型ホテル			予約問い合わせ件数が減少している。	
都市型ホテル			飲酒運転取締り強化により予想された飲酒者の宿泊客数は増加せず、結果宿泊部門の売上げが変わらない。また、宴会・レストラン部門の売上げが減少した。	
旅行代理店			以前は旅行費用が安ければ条件が合わなくても旅行に行った人がいたが、最近では費用が安くても条件が合わなければ旅行を控える傾向になっている。	
旅行代理店			全体の申込件数は減少していないが、単価の高い海外旅行の件数が減少している。	
タクシー運転手			遠距離（東京方面）の利用客がほとんどなく、営業回数も減少している。	
ゴルフ場			客単価の低下が続いている。	
パチンコ店			以前のように長時間遊ぶ客がいなくなった。	
ゲームセンター	来客数は増加しているが、客単価は低下している。			
企業関連	製造業（食品）	売上げがやや減少している。		
	製造業（食品）	年末に比べると売上げが減少している。		
	製造業（コンクリート製造業）	受注量が減少している。		
悪くなっている	家計関連	非製造業（建設業）	例年と比べて年度末の受注量が減少している。	
		タクシー運転手	一日の営業回数が減少している。	
	企業関連	製造業（食品）	売上げが減少している。	
		非製造業（建設業）	受注が少なく、一つの物件にいくつもの同業者と競争となり、利益がない。	
		非製造業（金融業）	取引先の売上げ減少が続いている。	
雇用関連	公共職業安定所	地元企業の現況調査や窓口での動向から。		

(5) 県西地域

(- : 回答が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由		
良くなっている	-	-	-		
やや良くなっている	家計関連	都市型ホテル	卒業・入学シーズン等の歓送迎会実施に伴う宴会の予約件数や宿泊者が多く見られる。		
		都市型ホテル	年度末で利用客が多い。ただし酒類の売上げが良くない。		
		住宅販売会社	新築着工数が増加してきている。ただし建替着工数は少ない。		
	企業関連	製造業(石材業)	お彼岸の時期なので忙しい。		
		製造業(金属製品)	現在のところ受注量は増加しているが、この先この状態が続くかどうかは不透明である。		
		製造業(輸送用機械)	自動車関連企業からの発注などにより繁忙感がある。		
		非製造業(建設業)	年度末のため、3か月前よりは多少売上げが良くなっているが、雑仕事が多くなった気がする。		
	雇用関連	求人広告	求人数が増加している。		
		公共職業安定所	新規求人数は増加傾向が続いている。特に製造業や介護関係(ヘルパーなど)の求人が目立っている。		
雇用相談員		全体的に見て、求人申出事業者が増加しつつある。			
変わらない	家計関連	スーパー	来客数に変化はないが、客単価が低下している。		
		農産物直売所	客単価が若干上昇しているが、季節的要因であり、景気上昇とは思われない。		
		ドラッグストア	売上げに変化はない。		
		理・美容店			
		ドライブイン	売上高や客単価は横ばいに推移している。個別に見てみると、農産物等の売上げは伸びているが、レストラン等飲食部門の売上げは減少傾向である。		
		ドライブイン	来客数は多いし、商品を見てはいるが、なかなか購入しない。		
		ゴルフ場	季節的に来客数が減少している。昨年同月比でも減少している。来客の顔ぶれに変化はない。		
		ゲームセンター	来客数・客単価ともに大きな変化はない。		
		レジャー施設	来客数は前年度より多少増加したが、客単価が低下したため、利益は昨年同様であった。		
		企業関連	農業関係者	農産物の販売価格は多少回復したものの、天候の影響で収穫量が減少している。	
	製造業(食品)		今の季節は例年なら閑散期にあたるが、製造ラインの稼働状況は下降せずに堅調に推移している。		
	製造業(印刷業)		4月の統一地方選挙に伴う需要があるが、それでも売上げはややマイナスである。		
	製造業(一般機械工業)		受注状況に大きな変化がない。		
	非製造業(倉庫業)		製造業関係の荷動きが少ない。		
	非製造業(金融業)		地元の建売物件が売れ残ったり、商店街の売上げ低迷が続いているなど、悪い状態は変わらない。		
	非製造業(広告業)		3月は年度末ということもあり仕事は多いが、途中で内容変更が多く、作業時間が多かった割には利益は出ていないと思う。費用対効果を考えて、弱気になっている客が増加している。		
	雇用関連		学校就業関係者	求人件数の増加は見られない。	
	やや悪くなっている		家計関連	商店街代表者	来客数が少ないため、料金を低くしている飲食店が増加している。
				商店街代表者	必需品以外の物は購入しなかったり、商品価値が悪ければ低価格でも購入しない等消費者が購入に対して慎重になってきている。
		スーパー		先行き不安材料が多く発生しているため、心理面で大きく影響が出ているのではないか。	
自動車販売店		客の話では、正社員ではなくパート社員が多くなるということである。			
衣料品専門店		来客数及び売上額が多少減少している。他社の状況も同様であり、レストランの状況も見える。			
ガソリンスタンド		客の会社が整理されたり、希望退職を実施している。原油価格の値上げに伴い製品の値上げをしているが、軽油のユーザーである運送業界の抵抗が大きい。			
寿司店		企業関係の接待件数が減少し、客単価も低下している。			
和食食堂		客単価が低下しており、また夜間の来客数が減少している。			
居酒屋		来客数が減少しており、特に以前と違い土日の来客数が減少している。			
旅行代理店		海外情勢の不安定さの問題もあり、旅行に行こうという意識が薄い。			
タクシー運転手		決算期を迎え、世の中の先行きが不透明だという会話を耳にすることが多くなった。			
タクシー運転手		3か月前は年末だったため、多少今よりも忙しい様な気がした。			
ゴルフ場		プレー料金を値下げしているため、客単価は下がっている。しかし来客数は現状維持が続いている。			
レジャー施設		施設内での飲食物の売上げが減少しているほか、イベントのスポンサーがなかなか見つからない。			

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	企業関連	製造業（木材業）	例年ならば、年度末は受注量が増加する傾向があるのに、今年は特に受注が少ない。
		製造業（化学工業）	受注量が減少しており、同業者間の価格競争が激化している。取引先の様子からみても景気は悪くなってきている。
悪くなっている	家計関連	家電販売店	競合店の出店により来店客が分散傾向にある。
		タクシー運転手	飲食店利用客減少の影響により、乗客数が減少している。
		クリーニング店	フリーの来客数が減少し、受注量も減っている。
		建築設計事務所	建設物件がない。
	企業関連	製造業（電気機械器具）	季節的要因かもしれないが、受注量が激減している。

2 景気の先行き判断理由

(1) 県北地域

(- : 回答が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	-	-	-	
やや良くなっている	家計関連	コンビニエンスストア	現時点が景気の底で、今後は良くなると思う。	
		非製造業（情報処理サービス）	取引先の来年度予算が若干増加する。	
変わらない	家計関連	自動車販売店	景気が良くなる要因が見当たらない。	
		農産物直売所		
		食堂		
		ゴルフ場		
		レジャー施設		
	企業関連	理・美容店	類似施設の増加により、利用者の安定的な確保が困難である。	
		製造業（一般機械器具）	3～4月は卒業・入学シーズンで利用客の増加が見込めるが、その後は減少となり、トータルすると変化はない。	
		製造業（電気機械器具）	海外情勢が不安定である。	
		製造業（電気機械器具）	景気回復のきざしが実感できず、先行きは不透明である。	
		非製造業（金融業）	不安定な海外情勢の動きもあり、先行きはわからない。	
雇用関連	非製造業（不動産業）	地元企業のリストラの影響で飲食店関係の売上げが伸びず、また地元商店街の購買力も回復のきざしが見られない。		
	公共職業安定所	先行き不安から、契約物件の解約申し出が多少増加してきている。		
	大手企業の人員整理が一段落し落ち着きを見せていたが、2月末に一部の企業で事業縮小があった。不安定な海外情勢の中で先行きは不透明であり、雇用環境は引続き厳しい。			
	やや悪くなっている	家計関連	ガソリンスタンド	近隣の小売店で物が売れていない。
	小売業（酒類）	先々の不安のため、貯蓄に回す額は増加しても、消費が増えることは期待できないので、景気が良くなることはほとんどない。		
小売業（土産物）	気候が暖かくなったら来客数は増加すると思うが、余分な物は購入しないのではないか。			
レストラン	売上げの減少が続く。			
居酒屋	昨年6月に実施された飲酒・酒気帯び運転の罰則強化以降、来客数の減少に歯止めがかからない。			
観光型ホテル	気候も暖かくなり、行楽シーズンに向けて期待しているが、外的要因（不安定な海外情勢、金融不安）による消費者の将来に対する不安があるのではないか。			
タクシー運転手	利用者数は減少していく。			
企業関連	林業関係者	需要が増加しないため、作業の受注も増加しないと思う。		
	水産業関係者	燃油類の高騰に伴い景気が悪くなる方向へ進む。		
	製造業（電気機械器具）	取引先の倒産があったため、売上げ減少が見込まれる。		
	製造業（電気機械器具）	個人消費や企業設備投資が低調に推移しているうえに、不安定な海外情勢が加わり、さらに景気は悪くなる。		
雇用関連	非製造業（建設業）	先行きの閉塞感を強く感じている企業や人が多い。		
	人材派遣業	新規の派遣需要は見込めず、現派遣者の契約期間の延長或いは更新に頼る状況である。		
	求人広告	良くなる状況がない。一般の消費も減少するのではないか。		
悪くなっている	家計関連	商店街代表者	景気回復は望めない状況である。	
		スーパー		
		都市型ホテル		
		タクシー運転手		
		割烹料理店		不安定な海外情勢の影響で旅行に行く人が減少し、また消費も減速すると思う。
		観光型ホテル		更なる経費の増加が見込まれる。
旅行代理店	不安定な海外情勢の影響で海外旅行の申込み件数が減少気味であり、今後さらに悪化する可能性が高い。海外旅行希望の客は代替で国内旅行にするという考えがない。			

回答区分	分野	業種・職種	理由
悪くなっている	家計関連	レジャー施設	明るい材料が全くない。5月のゴールデンウィークの天候が悪ければ危機的状況となる。
		クリーニング店	クリーニング代の低料金時代となっている。
	企業関連	製造業（食品）	労働力を海外へ求める動きが強まり、企業経営がますます苦しくなる。
		製造業（一般機械器具）	当面は作業量が減少傾向である。

(2) 県央地域

(- : 回答が存在しない)

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	-	-	-	
やや良くなっている	家計関連	タクシー運転手	6月は各企業がボーナス支給月であり、売上増を期待している。	
	企業関連	理・美容店	新メニューにより売上げが増加すると見込んでいる。	
変わらない	家計関連	製造業（食品）	今後、端午の節句等季節の行事がいろいろあり、売上げが増加する条件が揃う。	
		百貨店	景気が悪くなるような材料ばかりが目立ち、消費マインドが最悪である。	
		スーパー	競合店が密集しているなかで、特売商品をあえて購入しなくてもいづれ他の店で特売を実施するだろうという考え方が消費者にはあるため、定番商品が売れなくなっている。	
		スーパー	景気が良くなる要因が見当たらない。	
		コンビニエンスストア		
		農産物直売所		
		ゲームセンター	食品関係はやや売れているが、競合店との価格競争のため低価格となっており、売上げが伸びない。	
		ショッピングセンター		
		自動車販売店	法人関係の車の動きが鈍い。所有台数を減らしている企業もある。	
		都市型ホテル	特別な行事やイベント等がない。	
		都市型ホテル	短期間での好転は難しいと思う。客単価が昨年から変わらない。	
		観光名所	来客数は増加すると思うが、消費額の増加は期待できない。	
		レジャー施設	新規の引合いもあるが、今年度限りで取りやめる利用者もいる。	
		理・美容店	春の異動時期は少し良くなると思うが、その後は変わらないと思う。	
		企業関連	製造業（出版・印刷業）	景気が良くなる材料がない。
			非製造業（建設業）	景気が上向くとは思えないが、安定成長が続くと思われる。
			非製造業（金融業）	海外情勢の影響により景気の回復は難しい。
		雇用関連	人材派遣業	先行きがはっきりしない。
			公共職業安定所	リストラも3月末をピークに終息すると思われ、建設業や製造業では持ち直しの動きが見られるが、長引くデフレ経済や海外情勢等の懸念要素も多い。管内企業の業況感からも、景気は横這いで推移すると思われる。
	やや悪くなっている	家計関連	商店街代表者	通常2～3月は年度末の繁忙期であるが、今年度は前年と比べても一段と厳しさが増している。このことが新年度になって悪影響を及ぼしてくると思われる。
百貨店			4月頃は上向くと思われるが、気温の落ち着く5～6月は、消費は落ち込むのではないが。	
スーパー			不安定な海外情勢による石油価格の上昇に伴い景気の先行きが不透明である。	
レジャー施設				
建築設計事務所				
ガソリンスタンド			海外情勢の不安定に伴う先行きの不安から消費が落ち込むと考えられる。	
ファミリーレストラン				
レストラン			不安定な海外情勢に伴い、先行きがますます不安である。	
タクシー運転手				
家電販売店			国内及び海外情勢の混乱の中、消費者の財布のヒモは今まで以上に固くなると予測する。	
割烹料理店			不安定な海外情勢の影響で、企業がコストを削減することになれば、景気は良くならない。	
タクシー運転手			医療費の負担増は、多少なりとも利用客に影響する。	
ドライブイン			海外情勢の悪化により、ガソリン価格が上昇し、それに伴い遠出する人が減少すると思われる。	
企業関連			製造業（土石製品）	3か月先までの受注が少ない。
			製造業（一般機械器具）	4月以降の受注はあまり増加していない。
			非製造業（輸送業）	荷主が14年度の落ち込みを回復できるか模索している。特に不安定な海外情勢による原油価格の上昇を危惧している。
雇用関連			非製造業（広告代理業）	新規出店といった好材料が少ない。
			求人広告	広告費を抑える企業が増加している。
悪くなっている		家計関連	商店街代表者	現在の状況に加えて、海外情勢の不安定さを考えると、さらに景気が悪くなる。
	レストラン		先行きが何も見えない。明るい材料が何ひとつない。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
悪くなっている	家計関連	旅行代理店	不安定な海外情勢に対する旅行者の心理的不安が増している。
		ゴルフ場	予約状況の伸びがみられない。
		パチンコ店	近隣店舗が閉店した。今後生き残っていけるのはある程度大規模な店舗のみと思われる。
	企業関連	製造業（一般機械器具）	海外情勢の影響により景気の悪化は避けられない。

(3) 鹿行地域

(- : 回答が存在しない)

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	-	-	-	
やや良くなっている	家計関連	スナック	天候等にも左右されるが、暖かくなり人々の外出の機会も多くなると思う。	
		タクシー運転手	6月にあやめ祭りが開催されるので、観光客の増加に期待する。	
		観光名所職員	これからの季節は来客数が増加すると期待している。	
	企業関連	製造業（食品）	暖かな陽気となるにつれて、物の動きが多くなる。	
		製造業（化学工業）	世界情勢の変化による株式市場の活性化がみられるのではないかと。	
変わらない	家計関連	スーパー	消費者は必要以上に購入してくれないと思う。	
		観光型ホテル	平日の予約状況が悪い。景気回復は望めない。	
	企業関連	農業関係者	世の中の不景気が好転しない限り変わらない。	
		製造業（印刷業）	3か月程度では現状は良くなる見込みがない。現状に慣れてしまっている。	
		非製造業（住宅設備施工業）	見積もり依頼件数が減少しており、受注件数が増加するとは思えない。	
			非製造業（金融業）	土地や株値の低迷が続いている。
	雇用関連	人材派遣業	一進一退の状況はまだ続く。	
		公共職業安定所	最近実施したアンケートによると、今後の見込みを「さほど良くない」と及び「悪い」と答えた企業が前回（昨年8月）同様、全体の9割を超える。	
		学校就業関係者	年度末という季節的要因のためか、現在のところ求人数が比較的多いので、そのまま現状維持することを期待する。	
	やや悪くなっている	家計関連	商店街代表者	社会情勢の見通しが立たない。
商店街代表者			デフレの進行により物の価値が薄れ、生産意欲も低下する。	
スーパー			購買力の低下。	
家電販売店			以前なら買い替えていた製品を、修理して使いたいと言う客が多い。	
自動車販売店			就職率の低さや土木・建設業関係の仕事のなさをよく耳にする。見通しが悪く消費者の買い控えが進む。	
観光型ホテル			プライダルシーズンの予約状況が悪い。	
タクシー運転手			地元で人の動きがなく、その状況はこのまま続く。	
パチンコ店			地元店舗からの利用客が減少している。	
住宅販売会社			所得税の住宅ローン減税制度の適用が今年末までの取得であるため、多少住宅購入の動きがあると思うが、不安定な海外情勢の影響による景気の先行きが懸念される。	
企業関連			製造業（窯業・土石製品）	個人消費が伸びる可能性は低い。
		製造業（窯業・土石製品）	関係企業の大半で操業不足に陥っている。材料・油などの価格が上がってきた。	
		製造業（飼料製造）	石油関連商品の値上げに伴い原材料価格及び製造経費が上昇し、コスト高の要因となる。	
		非製造業（輸送業）	海外情勢の混乱、国内産業の空洞化及び消費動向の落ち込みにより景気の先行きは悪くなる。	
		非製造業（輸送業）	国内需要が弱い中で、輸出の鈍化等が続けば景気は今以上に悪化する。	
		非製造業（金融業）	不安定な海外情勢の影響で石油関連商品の価格が高騰し、景気に悪影響を及ぼす。	
雇用関連		雇用相談員	景気の不透明さに加え、世界情勢の悪化が追い討ちとなる。	
悪くなっている	家計関連	スーパー	景気が良くなるきざしが見当たらない。	
		都市型ホテル		
		タクシー運転手	自家用車の利用が多い。	
		レジャー施設	年度末や新年度のイベントが一段落し、ゴールデンウィークの出費も重なってレジャー離れが顕著化してくる。物品販売の売上げは特売日やセール期間に集中しがちである。	
		クリーニング店	衣替えの時期であるが、これまでのような売上げはないと予想される。	
	企業関連	室内装飾業	新築住宅やリフォームの件数が少ない。	
		製造業（電気機械器具）	海外情勢の不安定さが増大し、先行きの見通しがつかなくなり、人々は消費を抑え景気はますます悪くなるのではないかと。	

(4) 県南地域

(- : 回答が存在しない)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや良くなっている	家計関連	タクシー運転手	ビジネスマンの利用が多少増加すると思われる。
		理・美容店	気候が暖かくなり衣替えもあるので、来客増に期待したい。
	企業関連	住宅販売会社	所得税の住宅ローン減税制度の適用が今年末までの取得であること等を考慮すると、住宅取得を検討する客は増加するのではないかと思う。
製造業（一般機械器具）		新年度になり新しいプロジェクトが動き出す。	
変わらない	家計関連	非製造業（輸送業）	夏に消費される商品の動きの増加が考えられる。
		商店街代表者	生活必需品である食品を生産・販売しているので、あまり景気の変動は受けない。
		スーパー	競合店同士で客の奪い合いとなっている。
		スーパー	競合が厳しくなり、客単価が低下する中、来客数の増加でカバーできるかどうか。
		自動車販売店	良くなる見込みがなく、さらに不安定な海外情勢がどう影響するかと思う。
		小売業（各種食料品）	人々の購買意欲は低い。
		観光型ホテル	景気が良くなる要素が見当たらない。
	企業関連	タクシー運転手	どうしても必要な人しかタクシーを利用しないため、この先売上げ増があまり期待できない。
		製造業（食品）	今より悪くなるとは思えないが、良い方向に回復するのはずっと先になるような気がする。
	雇用関連	製造業（一般機械器具）	新製品を投入しても市場の需要が不透明である。また企業の海外展開が進み、国内の空洞化が不安である。
		人材派遣業	派遣需要そのものは増加すると思われるが、条件面等さらに厳しくなることが予想され、収益としては変わらない。
		公共職業安定所	地元企業の今後の見通しによる。
		学校就業関係者	求人先企業の状況から見て、急速に景気が回復するとは考えられない。
		スーパー	競合店との競争が激化する。
	やや悪くなっている	家計関連	コンビニエンスストア
家電販売店			無駄遣いをしないためか、客が来店を控えている。
洋食食堂			例年のことであるが、3か月先の売上げは、減少が見込まれる。
和食食堂			所得の減少等先行きが見えない状況により、来店客が減少しそうである。
都市型ホテル			宿泊部門は常連客がいるため増減はないと思われるが、宴会・レストラン部門は予約数が減少しており、ホテル全体としてはやや悪くなっていくのではないかと。
旅行代理店			海外情勢の不安定さにより、さらに海外旅行の申込件数が減少する。
タクシー運転手			企業関係の利用が減少している。（タクシーチケットの利用減少）
ゴルフ場			予約状況からみて今後上昇するような気運は感じられない。また大口の予約回数が減少している。客は低価格に流れるなど料金に敏感である。
パチンコ店			競合店舗が増加傾向にあり、集客のため広告費等を増額しなければならなくなる。
建築設計事務所			良くなる条件がない。
企業関連		農業関係者	農家のもう一つの収入源である土木作業等が一段落することから、農家の収入が減少する。
		製造業（食品）	社会全般に良くなる材料が見当たらない。
		製造業（食品）	消費が低迷する。
		製造業（食品）	年間を通して商品の動きが鈍く、売上げが減少すると思われる。
		製造業（一般印刷業）	大変な価格競争を強いられている状況である。
悪くなっている	家計関連	非製造業（建設業）	受注の見通しが立たない。
		寿司店	先行きの不安が大きくなり、ますます消費者の財布のヒモが固くなっていく。
		旅行代理店	不安定な海外情勢に伴い海外旅行者の減少が見込まれる。
	企業関連	タクシー運転手	飲食店も不況のようなので、タクシー業界も不況が続くと思う。
		製造業（食品）	増税による価格値上げの影響で売上げが減少すると思われる。
		製造業（コンクリート製造業）	受注量が減少する。
		非製造業（建築設備業）	年度末を過ぎると例年売上げが下がっている。
雇用関連	求人広告	土地価格が下げ止まらず、土地が流動化していない。世の中の資金不足は解消されない。	

(5) 県西地域

(- : 回答が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	タクシー運転手	地元のタクシー会社が3社から2社に減少するようなので、客が流れてくると思う。
		ゴルフ場	ゴルフシーズンとなるので、来客数の増加が見込まれる。
		居酒屋	陽気が暖かくなり、人々の外出回数も増加するのではないかと。特に夜間の来客数の増加を期待している。

回答区分	分野	業種・職種	理由	
やや良くなっている	企業関連	製造業（食品）	新学期・ゴールデンウィーク・行楽シーズンを迎え、それぞれの時期に合わせた販売促進計画を予定している。	
		非製造業（倉庫業）	海外情勢が落ち着けば、行楽シーズンなので良くなることを期待する。	
	雇用関連	求人広告	生き残りのためここ数か月雇用する側がいい人材を求めており、企業側の工夫が感じられる。	
		公共職業安定所	新規求職者・雇用保険受給資格決定件数・解雇者数とも減少傾向にある。	
変わらない	家計関連	スーパー	客単価の低下に歯止めがかからず、特売をしても買上げ点数が増加しない。また客単価の低下をカバーするほど来客数は増加しない。	
		農産物直売所	来客数・売上げは増加するだろうが、景気上昇によるものではない。	
		洋食食堂	夜の来客数が減少しており、増加する様子がない。家族の勤務先でも来客が少ないという。	
		寿司店	様々な行事（法事・結納等）の際の利用を期待しておりこれ以上悪くならないと思う。	
		旅行代理店	陽気が暖かくなるので、人々の出足が良くなると思うが、社会情勢からみてあまり期待できない。	
		タクシー運転手	景気上昇の材料が見当たらない。	
		タクシー運転手	先行きはわからない。	
		タクシー運転手	現況からみて売上げの上昇が見込めない。	
		ゴルフ場	季節的に暖かくなっていくので来客数が増加するだろうが、新規の客は見込めない。	
		ゲームセンター	現在が景気の底だと思う。	
		レジャー施設	イベントの開催数及び来客数は現状のままである。	
		レジャー施設	あまり大きな変化はないと思う。賃上げもなさそうだし、節約傾向も変わらないだろう。	
		住宅販売会社	現在の状況がしばらく続くのではないかと。	
	企業関連	農業関係者	社会情勢を見た限り回復の見込める材料がない。	
		農業関係者	景気が回復した様子が見られない。	
		製造業（木材業）	取引先からの見積依頼が少ないので、現在の状況と変わらない底入れのままである。	
		製造業（金属製品）	石油製品の価格が上昇してきており、景気が良くなるとは思えない。	
		製造業（一般機械工業）	受注スケジュールからみても、現在と変わらない。	
		製造業（電気機械器具）	現時点では受注の話がない。	
		非製造業（金融業）	良くなる要素が見つからない。建設業は相対的に需要が少なく、公共工事も厳しい。	
		非製造業（広告業）	顧客数・売上げ共に一進一退の感じである。今後は企業内外でネットワークづくりを強化していこうと思う。それが仕事に結び付くことが案外多いように思われる。	
		雇用関連	学校就業関係者	4月以降に求人状況の好転するきざしが全く見えない。
			雇用相談員	求人数に変化はない。
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	景気が良くなる理由が見当たらない。	
		自動車販売店	前年の実績を確保するのが難しいという話を聞く。	
		商店街代表者	不安定な海外情勢の影響で石油関連商品の価格が上がるのが予想され、それに伴い景気が悪くなるのではないかと。	
		衣料品専門店	3月末の決算状況等からは回復の見通しを感じない。失業率の悪化が進みそうで、人材の浮遊化現象が感じられる。	
		和食食堂	特に酒類の売上げが減少すると思われる。	
		ドライブイン	所得減少、社会保険負担増、増税等により、今後ますます個人消費は冷え込んでいくと思われる。	
		ドライブイン	バスツアーは多く見かけるが、利用者は純粋に旅を楽しみ、買物まではしない。	
		理・美容店	近隣の工場の海外移転に伴い社員も転勤や長期出張が増加し、来客数が減少していくと見込まれる。	
	企業関連	製造業（印刷業）	景気が良くなる材料がない。	
		製造業（化学工業）	海外情勢の不透明感により原油及び関連材料価格の上昇が見込まれる。	
		製造業（輸送用機械）	今年度実績に対して、来年度計画は売上げが減少している。	
		非製造業（不動産業）	法人の採用が減少し、人事異動も以前ほど活発ではないため、賃貸物件が減少している。	
		非製造業（コンサルタント業）	「2003年問題」等昨年首都圏で発生した問題が県内に波及するのではないかと。	
悪くなっている	家計関連	家電販売店	故障しても買い替えるケースは減少しており、修理による対応が増加している。	
		クリーニング店	暖かくなってきても客足が伸びない。3か月先は悪くなっているとしか思えない。	
		建築設計事務所	先行き不安から、設備投資が抑えられている。	
	企業関連	非製造業（建設業）	全く予定がたたず、今後落込んで行く気がする。	

3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	地元企業の早期退職募集数が2月末で300名と聞いており、また人口が減少していく。これで街の活性化はどうなるのか。
	スーパー	バレンタインチョコの売上げで義理チョコの占める割合が少なくなっている。切り詰めるべきところは切り詰める生活防衛の表れではないか。
	衣料品専門店	近所の2店舗が閉店した。
	ガソリンスタンド	地元の小売店に客が入っていない。
	小売業(酒類)	飲酒運転の取り締まりが厳しくなって以来、売上げが極端に減少した。また地元の小売業が閉店してしまい、高齢者世帯が買物をするのに不便が生じている。
	小売業(靴製品)	客は商品価格が客自身で納得をした場合や新商品に対しては大いに反応する。
	卸売業	ブランド品でも売れているものと売れていないものがある。
	レストラン	企業努力をしている店舗には客が入っている。
	スナック	3~4月は歓送迎会の利用があるので一息ついている。
	食堂	小規模店舗では人件費等の経費を下げることができず厳しい状況である。
	割烹料理店	以前のように外出してお金を使わなくなっている。
	都市型ホテル	消費は落ち込み、景気上昇の気運はつかめない。
	観光型ホテル	団体客や家族・グループでの宿泊が減少し、夫婦やカップル等2人での旅行が目立っている。2名対応の低価格化とサービスが求められている。
	旅行代理店	旅行価格で旅行案件を選択する客が目立っている。
	ゴルフ場	人々は価格が安くて、自分自身が確実に欲しい物しか購入しない。余分に物を求める余裕がないようである。
	レジャー施設	消費者の購買意欲が見られない。新規商品を開発して、それが当たって現状維持という状態である。
	レジャー施設	不安定な海外情勢に伴う石油関連商品の価格上昇が懸念される。
	理・美容店	近隣の店舗が閉店している。いずれも安売りを行ったところである。
理・美容店	地元企業の不況が理・美容業といったサービス業にも影響を与えている。	
企業関連	林業関係者	先行き不安の話題が多い。
	水産業関係者	海外食品の輸入に伴い、国内産の原料価格が高くなり、販売価格と生産価格の逆転が見られる。
	製造業(食品)	販売価格の下落に歯止めがかからず、採算割れやリベートの増加等経営の圧迫が強くなっている。
	製造業(一般機械器具)	店舗の閉店や企業の倒産が多い。
	製造業(電気機械器具)	公共職業安定所の駐車場はいつも満車である。職探しをしている人が多いと思
	製造業(電気機械器具)	価格の上昇や品薄のため、原材料の購入に苦慮している。
	製造業(電気機械器具)	海外情勢の緊張化により輸出製品への影響が懸念される。
	非製造業(金融業)	今年に入ってから飲食業や旅館業の売上げ減少が著しい。
非製造業(不動産業)	知人から遊びの誘いが全くなかった。賃金下がるという話をよく耳にする。	

(2) 県央地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	商店街としては、リストラ・経費節減・在庫調整とやるべき事は全て行い、もう限界までできているという状況である。
	百貨店	競合店の閉店によって食料品の売上げが増加してきている。
	百貨店	知名度のあるブランドへの集中傾向が顕著である。
	スーパー	いろいろな店舗の広告が氾濫しているため、どの商品がどの店舗の広告品かわからなくなっている客が多い。
	スーパー	客の様子をみると、無駄なものは購入しない。購入するものを前もって決めていようである。
	スーパー	生活必需品以外の商品の動きが悪い。
	コンビニエンスストア	商品の価値に対する消費者の目がシビアである。
	自動車販売店	小型車が今後も自動車市場を牽引していくと思う。
	農産物直売所	2月に赤ネギに関するテレビ放送があり、売上げが前年比で30%増加した。
	ガソリンスタンド	月を追うごとに石油製品の仕入額が高くなっている。
	割烹料理店	景気が悪くなったと感じている企業は増えていると思う。
	レストラン	日中は主婦等の動きがあるが、夜間は全くない。
	都市型ホテル	卒業シーズンのため、昼・夜とも少人数で食事をするグループがある。
	都市型ホテル	以前は、年度末に宴会等が行われることがあったが、現在はあまりないと思う。レストランでは、団体より個人で利用し、お得なセットメニューの注文が多い。
	観光型ホテル	当館に就職したいという照会が多い。客は土産品の購入を手控えている。

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	旅行代理店	旅行商品価格の低迷化が宿泊施設や飲食店といった関連業界にも影響を及ぼし、結果として収益を圧迫する形となっている。
	タクシー運転手	利用客の会話を聞いていると明るい話はない。
	タクシー運転手	テナント料の値上げのため、ビルから撤退する飲食店が出てきている。
	タクシー運転手	3月は送別会の時期であり、タクシー業界にとって忙しい時期になるはずだが、飲酒運転の罰則強化に伴う飲食の控え等により前年と比べて売上げが減少
	ゴルフ場	法人の来場者が減少している。
	レジャー施設	利用者自身の事業の未収金が回収できないため、保管料の支払いができないというケースが増えてきた。
	理・美容店	同業者の出店が増加している。
企業関連	製造業(食品)	同業者が倒産したこともあり、業界全体としては良くないと見られている所もあるが、現状は少しずつ良くなっているように思う。
	製造業(食品)	土産品の客単価は確実に低下している。
	製造業(出版・印刷業)	受注のため採算を考えていないと思われるほど過当競争が横行している。資金繰りにも相当影響がでているのではないだろうか。
	製造業(出版・印刷業)	不安定な海外情勢により、原油の安定供給が懸念される。
	製造業(土石製品)	とにかく安い物を必要最低限だけ購入している。
	製造業(一般機械器具)	4月以降が心配である。
	製造業(一般機械器具)	全国的に見て首都圏・北日本の市場はまあまあだが、西日本の市場は冷え切っている。この状況にどう対応していくか苦慮しているところである。
	非製造業(輸送業)	ガソリン・軽油の価格が急激に上昇している。
	非製造業(金融業)	他店との差別化に成功し善戦している企業もある。
雇用関連	公共職業安定所	前年に比べればリストラは減少している。しかし、賃金低下や残業時間減少による所得環境の悪化から、副業でアルバイト・パートを希望する在職求職者の増加が目立つ。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	大型店舗同士の価格競争が見られる等価格破壊の現状なので、商店街としては、ポイントカードといったサービス等で固定客獲得を目指している。
	商店街代表者	皆で景気向上の話ができるような雰囲気を作ったらどうか。
	スーパー	外食産業では勝ち組と負け組が明確になっている。
	衣料品販売店	全てにおいて低価格競争にシフトしている。またパートタイマーの離職率が極端に低くなってきている。
	家電販売店	100円ショップがいろいろな品物を揃えるようになり不安を感じる。
	小売業(薬品店)	大企業よりも、中小企業や地元企業の方がより苦しんでいる気がする。
	書店	店舗間の販売競争が激化することにより、淘汰される店舗が増加し、その結果失業者も増加する。
	スナック	ここ1、2か月、夜間の人出が少なく感じられる。
	タクシー運転手	地元には活気がない。
	タクシー運転手	代行業者に客を取られている。
	理・美容店	客の来店頻度が数年前から少なくなってきたおり(2、3か月に一度来店)、その結果売上げは激減している。
	室内装飾業	自動車だけは嫌なくらい走っている。
	サービス業	継続受注が多い。
	住宅販売会社	動きのある企業とない企業がはっきりしてきている。今まで主要な顧客であった企業勤めの客の来店数が減少するとともに契約金額が下がっている。
	企業関連	製造業(化学工業)
製造業(窯業・土石製品)		新卒者の就職難はあるものの、近隣企業で新規採用が見受けられる。
非製造業(住宅設備施工業)		受注件数を抱えている企業と抱えていない企業との差がはっきりしている。
非製造業(金融業)		金融機関は自己資本比率の低下防止のため、中小企業に対する融資判断は厳しくなり、資金繰りに苦しむ中小企業の倒産が増加すると思われる。
雇用関連	非製造業(金融業)	夜逃げが減って破産宣告が見られる。
	人材派遣業	景気の先行きに対する悲観的な見方が定着し、自己防衛する動きが浸透してきている。
	公共職業安定所	景気の先行き不透明感から、当面の受注に対応するといった有期の求人募集が目立つ。
	雇用相談員	従業員を解雇し家族経営に切り替えた事業所や倒産なのか移転したのか不明な事業所が多い。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	スーパー	商品価格に対する問い合わせが以前より増加している。
	スーパー	野菜類の価格が高騰しており、利益が低下している。
	スーパー	深夜営業の店舗が増加しつつある。
	コンビニエンスストア	近所の大学に通う学生によると、仕送り額が以前に比べて減少しているとのことである。
	家電販売店	高額商品か低額商品が売れるという二極化が進み、その間の価格の商品が売れない。
	自動車販売店	客から自動車の整備代金や保険料金等の細かい説明を要求される。
	農産物直売所	安さを売りにしたスーパー等の広告やパチンコ店の広告が増加した。
	洋食食堂	客単価が低下している。特に酒類の注文が全くない。
	寿司店	閉店する店舗（飲食店・ドラッグストア・ガソリンスタンド・ゴルフ練習場等）が多くなった。また飲食店の組合数も減少している。
	和食食堂	平日の夜間の来店客がやや減少している。外食を少し控えている傾向である。
	旅行代理店	旅行パンフレットの減り方が以前と比べて悪い。目先を変えたりアピールする目的からか、各店舗とも改装といったリニューアルが目立っている。
	旅行代理店	単価の安い商品を求める傾向は相変わらず強くなっている。
	タクシー運転手	地元の飲食店が不況の影響で閉店している。
	タクシー運転手	深夜の営業が減少している。
	タクシー運転手	駅構内は家族の送迎をするマイカーの台数が多い。
	タクシー運転手	飲食店やサービス業といった乗客から、依然として景気は回復していないと言う声が聞かれる。
	タクシー運転手	深夜バスの運行や、日中の市町村による無料バス・低料金バスの運行により、客を取られている。
	ゴルフ場	サービス業界は今後も経費節減が必要だと思う。
	パチンコ店	どの業種でも、リピーター目的の販売促進を実施している。
	理・美容店	近所に大型ショッピングセンターが開店したため、地元の商店の来客数が減少している。
理・美容店	低料金や年中無休を打ち出している同業者の進出が目立っている。	
企業関連	農業関係者	大規模店舗の来客者が満員である一方で、地元の個人商店は夕方ほとんど客がいない状態である。
	製造業（食品）	鉄道建設のからみか、マンション建設が見られるようになったが、その一方で大型店舗の客数がやや減少したようである。
	製造業（食品）	発展している地域と衰退している地域の差が顕著に表れている。
	製造業（コンクリート製造業）	経費削減及びコスト削減対策を図るほか、営業戦略の立て直しや新規顧客の掘り起こしを実施している。
	製造業（一般機械器具）	短期間の仕事が多い。
	非製造業（建設業）	原油価格の値上げの影響で塗料価格も値上げの見通しである。受注競争のため利益が減少しているなかでますます厳しくなると思われる。
	非製造業（建設業）	人々は何を買うにも価格が安い店舗に向かい、全ての物を安く買おうとしている。店舗は赤字で売っているのではないかと思う。
	非製造業（輸送業）	特に安全管理に関して各メーカーの確認が活発である。
非製造業（金融業）	夜7時以降も営業する店舗が増加してきている。	
雇用関連	人材派遣業	「勝ち組・負け組」の企業の差が著しい。人材面も大きく動く気配を感じている。
	求人広告	県立高校はアルバイトを禁止している学校が多いが、社会的経験や雇用のミスマッチを防ぐために原則認めてはどうだろうか。
	公共職業安定所	一部企業に人員処理の動きが見られ、今年度末から来年度当初にかけてその動きの加速が懸念される。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	近隣市町村に大規模ショッピングセンターが開店予定であり、知人がそこに就職すると聞いた。失業者が減るのは大変良いが、当地の商店街の来客数がまた減少するのではないかと。
	商店街代表者	3, 4月は卒業式・入学式シーズン等出費の多い時期なので、必要最低限の消費しかしないのではないかと。
	スーパー	大手企業でさえ夏季ボーナスカットがある現状では、地方の中小企業の回復の兆しはないと思う。
	スーパー	金融機関の対応が過去とは大きく違っているという話が多い。
	家電販売店	客は安売りセール時期の購入を考えており、通常時は買い控えの傾向が見受けられる。
	自動車販売店	高速道路のインターチェンジ付近に大型ショッピングモールが開店したり、さらに新たに造成されるという話を耳にする。

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	ガソリンスタンド	身の回りの多くの人ガリストラや失業など、景気のことを心配している。
	洋食食堂	天候の良い週末は客が少なく、天候の悪い週末は客が多い。
	寿司店	賃金カットや賞与の出ない企業が多い。
	和食食堂	客のニーズに応えるために、季節感を出すなど、ひと工夫加えたメニューを作っていく必要がある。
	都市型ホテル	飲食店や既存スーパー系列店の出店及び美術館のオープン等があり、その相乗効果が期待できそうである。
	都市型ホテル	近隣市町村にショッピングセンターが出店し、若年層がどのように行動するのが注目している。
	旅行代理店	取引先や提携しているホテルでも支払関係に慎重になってきている。新規契約も少ない。
	タクシー運転手	地元商店街の人通りが少なく、活気がない。
	ドライブイン	付加価値のある物や安価で良い商品を提供して行かないと、売上げは伸びない。利益に結びつけて行くのはさらに大変である。
	ドライブイン	商品は近隣店舗にないものを仕入れる等差別化を図っている。
	ゴルフ場	消費者の安値傾向が目立つ。
	レジャー施設	企業や店舗の閉鎖が増加している。
	レジャー施設	何らかのストレスを持って生活している現代人が多い昨今、元気な業界は「癒し」を提供する施設である。
	理・美容店	不況により客の来店頻度がますます減少していく。
	住宅販売会社	来客の過半数は20歳台後半から30歳台である。
建築設計事務所	家を新築せずにリフォームする人が増加してきた。廃業している同業者が増加している。	
企業関連	製造業（食品）	食の安全を確保するため、かなりの経費と時間をかけて様々な教育を行っているが、消費者と信頼関係を結ぶための前向きな投資と考えている。
	製造業（木材業）	住宅内部製品といった、これまで新規に取り替えていたものまで最近では修理する傾向が多くなり、とても売上増など望めない。
	製造業（印刷業）	零細企業の閉店が増加している。また資金繰りに困った企業がヤミ金融や高利貸しに手を出した結果、倒産後に店舗が暴力団関係者の手に渡り、街中の治安も悪化している。
	製造業（石材業）	納期が一段と短くなり、残業をして納期に間に合わせなければ次の注文が来ず、また受注価格も下げられている状態である。
	製造業（化学工業）	前年好調だったデジタル家電に一服感が見られる。国際情勢による材料高も懸念される。
	製造業（電気機械器具）	業界再編が頻繁にある。
	製造業（輸送用機械）	消費マインドが上昇していないように感じる。
	非製造業（建設業）	地元政界絡みで、仕事がない状態。不景気の影響で設備投資が冷え込んでいる。
	非製造業（金融業）	倉庫業は需要が増加しているほか、温泉施設の売上げが堅調である。
	非製造業（不動産業）	家賃の滞納者が増加傾向にある。また同業者が廃業している。
非製造業（広告業）	決して景気が良くなる状況ではないが、一人一人の仕事に対する取り組み方で社内、或いは取引先の信用度が違ってくると思う。このことに気づいてくる人が多くなれば、景気も変わってくるのではないかと。	
雇用関連	人材派遣業	食品関係と通信業（電話）関係の企業は平均して安定している。
	求人広告	余裕のある雇用をしていないためか、急遽求人を募集する企業が増加している。
	雇用相談員	求人条件としては、パートタイマーが多くなっている。